



さい帯血情報

『臍帯血による再生医療研究会』 第4回学術集会の参加レポート

日時： 平成28年7月24日(日) 11:30 ~ 17:10
会場： 大阪国際会議場 (参加人数 約120名)
会長： 新宅 治夫 (大阪市立大学大学院 医学研究科 発達小児医学分野 教授)

特別講演 I 田口 明彦 (先端医療センター 再生医療研究部 部長)

- ◆ 造血幹細胞投与による末梢の動脈閉塞症の治療経験と心原性脳梗塞患者に対する臨床試験の治療結果が発表された。
- ◆ 若いマウスの造血幹細胞を用いた老齢マウスの若返りに関する基礎研究の展望が紹介された。

特別講演 II 中畑 龍俊

(京都大学iPS細胞研究所 副所長、臨床応用研究部門特定拠点教授)

- ◆ 世界で初めて発見した臍帯血幹細胞は、研究するための骨髓液入手が困難であったため、自身の子供の臍帯血を使用して新発見につながった。
- ◆ CiRAで実施されている臍帯血由来iPS細胞のHLAホモストックにより、細胞の準備期間の短縮と治療費を抑える取り組み
(加齢黄斑変性治療の約1億円/人から数百万円台に)

招待講演 I 辻 雅弘

(国立循環器病研究センター 再生医療部 室長)

- ◆ 新生児脳梗塞モデルマウスへの臍帯血CD34陽性細胞投与の効果は、直接的な置換効果というより血流改善、血管再生、各種栄養因子分泌等によってもたらされる。48時間後の治療でも効果を持つ。



- 講演の様子 -

招待講演Ⅱ 森丘 千夏子 (東京医科歯科大学 小児科学教室)

- ◆ 脳室周囲白質軟化症 (PVL) モデルラットに対する臍帯由来の間葉系幹細胞およびINF- γ で刺激した培養上清(サイトカイン)の投与は、白質量に対する改善効果があった。

一般演題 5演題

- ◆ 自己臍帯血幹細胞を用いた新生児低酸素性虚血性脳症 (HIE) 治療に関する3例の臨床研究について、倉敷中央病院、淀川キリスト教病院、埼玉医科大学総合医療センターより発表された。
- ◆ 新生仔脳虚血再灌流モデルマウスを用いたヒト臍帯血幹細胞移植後におけるサイトカイン・ケモカインの発現変化や内在性神経幹細胞の遊走について、高知大学より研究発表された。

情報交換会においても多くの先生が参加され、活気ある研究会となった。



- 情報交換会の様子 -